

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2015.8 No.72



－ 特集 －

1頁 : 玉泉院丸庭園の魅力と楽しみ方

石川県金沢城調査研究所長 木越 隆三氏

2・3頁 : 石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランの取組について

石川県教育委員会事務局学校指導課長 小浦 寛氏

4・5頁 : インタビュー 「人」

横笛奏者 藤舎 眞衣氏



玉泉院丸庭園の魅力と楽しみ方

石川県金沢城調査研究所長 木越 隆三

この春、金沢城公園に玉泉院丸庭園が再現され、多くの観光客や県民が訪れています。そこで、この玉泉院丸庭園再現の基礎となった絵図・文献調査や埋蔵文化財調査に関わった者の目から、玉泉院丸庭園とはどのような歴史遺産なのか、どういう点に注意して見学すると、より深く楽しめるのか、この場をかり申し上げたい。

まず、玉泉院丸庭園は加賀百万石を治めた大名前田氏の大名庭園です。大名庭園として金沢の兼六園、岡山の後楽園、水戸の偕楽園、四国高松の栗林公園などが著名ですが、大名庭園は池泉回遊式などと呼ばれる日本庭園の様式です。広大な敷地に深山幽谷、滝・断崖・海辺・岬、湖水や田畑の広がる平野や森林などを模倣した人工風景を作り、そこに日本古来の風雅の趣を加え、茶を楽しむほか大切な客を迎える接待の場、文武の道を究める場、子弟を教育する場、家臣との絆を深める場、また癒し空間として多面的に使われた近世日本の庭園様式です。

江戸時代に大名庭園が登場する前、京都を中心に禅宗思想を反映した枯山水の庭などが発達し、そうした室町時代の庭園文化の影響も受けています。

しかし、室町時代までの庭園と大名庭園の大きな違いは、座敷から静かに眺める庭ではなく、鑑賞者が庭内を自由に移動し、移動する中で庭景が変化することを楽しむ庭、つまりアクティブかつ多面的に利用する庭に変化した点が大きな特徴と言えます。それが近世大名の趣向だったのです。

すでに、金沢には庭園の「国宝」として知られる兼六園（特別名勝）があります。このたび開園した玉泉院丸庭園は、その兼六園より40年も前に作られたものです。

前田家5代藩主綱紀によって1676（延宝4）年に兼六園が今の夕顔亭付近に作られる前、3代藩主利常は1631年に、二の丸に本拠を移し豪華な御殿を作り、さらに辰巳用水を二の丸御殿まで引水しますが、その直後の1634年、二の丸のすぐ西隣に玉泉院丸庭園を作りました。

それ以後、明治まで歴代藩主が趣向を変えながら

利用しましたが、明治初年に金沢城に入って来た旧陸軍の手で玉泉院丸庭園は埋められ、長く地中に埋もれてしまいました。軍用馬場や憲兵隊施設などがあったのですが、戦後は県営体育館が作られ、若人のスポーツのメッカでした。平成21年春に県営体育館が撤去された後、埋蔵文化財調査を行ったところ、明治初めに埋められた庭園遺構が想定以上によく残っていることがわかり、廃絶した幕末期の姿で復元整備することに決まり、140年ぶりに再現されたものです。

一方、兼六園は5代綱紀が造園した後、歴代藩主の庭として領民から隔離され、殿様の庭として折々に姿を変えてきましたが、明治以後は一般県民に開放され「兼六公園」と改称し、市民憩いの「パーク」となりました。明治時代は市民のイベント広場となり、博物館・図書館・工業学校もあり多面的に利用され親しまれました。戦後は、特別名勝となり有料化もされましたが、活用のあり方は様々で、そのつど庭景も変化しました。

しかし、玉泉院丸庭園は同じ前田家の大名庭園ながら明治初期に廃絶されてから140年、地中に眠っており、それを平成になって埋蔵文化財調査や史実調査をもとに今に再現した庭園ですから、江戸時代末期の庭の地割はかなり正確に復元されています。むろん植栽や庭石などの庭景は現代の庭園技術によっていますが、江戸時代の地割をベースに作庭

されました。兼六園とともに、双方の造園の背景や特徴を比べながら楽しむと、玉泉院丸庭園をより深く楽しめると考えています。



石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランの取組について

石川県教育委員会事務局

学校指導課長 小浦 寛



はじめに

県教育委員会では、平成27年3月に、石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランを策定いたしました。

策定に当たっては、4回の策定推進委員会を開催しました。北陸先端科学技術大学院大

学の松澤副学長を座長とし、元文部科学省視学官の吉富委員、中央教育審議会初等中等分科会委員等を歴任されている荒瀬委員をはじめとして、県内の大学教員、企業経営者、団体役員、元校長及び現職校長の委員16名の方々から広くご意見をいただきアクションプランとしてまとめました。

以下では、このアクションプランの取組について、策定の背景、プランの体系・主な特徴などを述べます。

1 アクションプラン策定の背景

近年のグローバル化や情報化の進展などにより、高校卒業者に対して社会が求める役割はますます多様化しています。また、世界全体が急速に変化する中で、若者が将来就く仕事の内容ですら、先を見通すことが難しくなっています。

このような中であって、将来の社会を支える若者がそれぞれの能力・個性を發揮し、社会に参画・貢献することが求められています。

幸い、近年の全国学力調査において、本県の小中学生は良好な成績をおさめています。その子どもたちが高校へ進学した場合、個々の学力や校種、進路の違いなど、生徒・保護者のニーズが多様化・複雑化した状況の中で学習することになります。そうしたニーズに対応するために、各学校におけるカリキュラム・マネジメントを支援し、高校教育の質の向上に向けて取り組む必要があります。

また、中央教育審議会においても、高等学校教育の質の保証、多様なニーズに対応した教育活動の推進が述べられており、「何を教えるか」ではなく「どのような力を身に付けるか」の観点に立ち、そうした力を確実に育むための学習・指導方法について明確にする必要性が指摘されています。

こうした高校教育における現状や国の方向性を鑑み、生徒たちの学ぶ力を高め、実社会との様々な関わりの中で未来への飛躍を実現する人づくりを目指し、石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランを策定することとしました。

先行的かつ戦略的に策定するこのアクションプランを通して、学校をあげて生徒一人ひとりの学習意欲を高め、社会で生きていくために必要となる力や、社会の発展に貢献する力を身に付けられるようにするとともに、本県における教育力の更なる向上を期待しています。

2 アクションプランの体系

アクションプランでは目指す生徒像を、「自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、心身ともにタフな生徒」としています。高校教育を通じて学ぶ知識・技能や、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けるとともに、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し表現する力を育み、解決が困難な状況にあってもへこたれず立ち向かい打ち克つことができる姿をイメージしています。

この生徒像の実現に向け、四つの目標で構成されるプラン体系となっています。

◇石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランの体系

目指す生徒像

「自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、心身ともにタフな生徒」

目標1 一人ひとりの資質・能力を高め、社会の変化に対応できる実践力を育む教育の推進

- ①社会活動を行う上で共通に身に付けるべき資質・能力の育成
 - ア 生徒の資質・能力と学習到達度に応じた学力の質を確保する取組
 - イ 卒業後の社会で必要とされる資質・能力の育成
- ②学校のタイプや多様な進路に応じたタフな学力を育む教育の推進
 - ア 学校の特性に応じて更なる高みを目指した取組の充実
 - イ 時代のニーズに呼応した実践的な産業教育の充実

目標2 未来への飛躍を実現する人材の育成

- ①地域の活性化に貢献できる人材の育成
 - ア 地域社会の一員として主体的に参加する態度やふるさと愛の伸長
 - イ 地域に活力を与える企画力を備えた人材の育成
- ②イノベーションを担う人材の育成
 - ア 最先端の科学分野で活躍しようとする意欲や科学的スキルの獲得
 - イ 人文分野での活躍を志す人材の育成
- ③世界に羽ばたくグローバル人材の育成
 - ア 幅広い教養や国際的な視野の獲得
 - イ 英語コミュニケーション能力の育成

目標3 教員の資質・能力や学校の経営力の向上

- ①教員の専門性を高める研修の推進
- ②組織的学校の経営の推進
- ③教員の視野を広げる取組の推進

目標4 質の高い学びを実現する教育環境の整備

- ①新たな学びに対応した評価システムの構築
- ②新たな学びを実現する学習環境の整備
- ③産業構造や技術革新に対応できる高校の環境整備

3 アクションプランの主な特徴

生徒が身に付ける学力に着目すると、アクションプランの目標1では、生徒一人ひとりの普遍的な力をどう深めていくかという視点に立っており、また、目標2では、社会とのつながりの中で未来に向けてどう立ち向かっていくかという視点に立っています。ここでは、アクションプランの目標1と目標2に絞って、特徴的な内容を取り上げたいと思います。

まず、目標1の中心となる取組は、指導計画書（学力スタンダード）の作成です。各学校が地域内での学校の位置付け、地元産業界の要望、学校の強み・弱み、生徒・保護者の希望等を踏まえた上で、指導の方向性を明らかにし、学習指導方針（スクールポリシー）として明文化します。そして、このスクールポリシーに基づいて、学校独自の学力スタンダードを作成します。

学力スタンダードには、生徒にどこまで教え育むのか（学習の深さ）、生徒はどのように学ぶのか（学習の方法）、そして教科で育む資質・能力（学習と資質・能力の関係）を記載して、教員間で共通理解を図ることとしています。

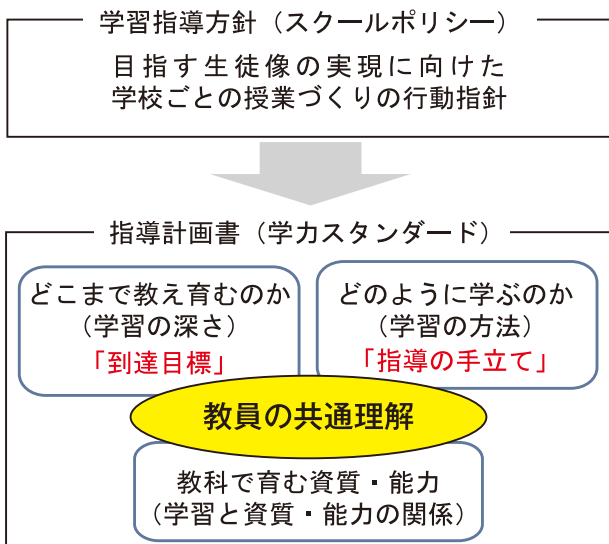
特に、学習の深さについては、生徒の実態に応じた具体的な到達目標として表現します。ここで、各到達目標は生徒の到達点の上限を表すものではなく、教員が指導し始める際の目安であり、生徒は到達目標を通過点として飛躍していくことを目指しています。

また、学力スタンダードは、教員のいわゆるマニュアル的なものではなく、作成した後で固定するものではないと考えています。むしろ、右上で示すように、教員間で協議しながら、不断の見直し・修正を行うべきものと捉えています。

同じ教科はもちろんのこと他教科の教員を含めて、授業づくりに係る教員間の対話を促すものとして、学力スタンダードを活用するイメージを持っています。

各教員は、複数の科目の学力スタンダードから生徒の現状を把握した上で、担当科目の当面の到達目標・指導の手立てをベースとしながら、自分の持ち味や工夫を上乘せして授業を実施することになります。

◇指導計画書（学力スタンダード）の概要



◇指導計画書（学力スタンダード）の活用方法



次に、目標2ではイノベーションを担う人材の育成として、ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業を実施します。普通科高校の生徒が、県内ニッチトップ企業等の社員との意見交換や、その企業の創造性を多角的に調べることを通して、クリエイティブに物事を考える視点を培います。また、地域に愛着を持ち、地元で就職するなど、地域貢献を積極的に考える若者の増加を目指しています。

さらに、世界に羽ばたくグローバル人材の育成については、いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）等において、海外研修や留学生等との交流を一層充実させます。異文化と直接触れ合い、意見交換する機会を設け、主体的に行動するための資質を育成します。また、国際化を進める国内の大学、企業、国際機関等と連携を図り、将来国際社会で活躍できるリーダー的人材の育成に取り組みます。



いしかわニュースーパーハイスクールの取組
(イギリス海外研修での意見交換)

おわりに

今回策定したアクションプランは、高校の学力向上に特化し、目指すべき生徒像を定め、その実現に向けた目標を設定し、その目標をどう具体化すべきかを示したものです。各高校では、組織的な学校経営の推進など、これまでの取組を一層、深化・充実させつつ、当面は5年を目処として実施する予定としています。

保護者や地域の皆様方の、一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

(URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/gakkou/action.html>)



横笛奏者 藤舎真衣さん

金沢市出身。祖母初代藤間勘菊、母二代目藤間勘菊という舞踊家の家に育つ。25歳より横笛の道に入り、東京芸術大学音楽学部邦楽科囃子笛別科修了。平成16年金沢市文化活動賞、平成18年第39回北國芸能賞受賞。精力的に邦楽の発展と普及のためご活躍中の藤舎さんにお話を伺いました。

インタビューー 館長 宇都宮 博



あるいはいろいろな楽器と共演させていただく機会もあります。

～笛の道に入るきっかけ～

館長 笛の道に入られたのはいつ頃からで、そのきっかけは、何だったのでしょうか。

藤舎 中学生の頃一調一管を聴き、藤舎秀扇さんに笛を習いたいと思いましたが、中学生ではお稽古時間が合わず、25歳の時、金沢で祖母の追善の会があり、そこで今の中川先生の横笛をお聴きしました。「あっ凄い笛の音だな」と魅せられ、その翌月に偶然のご縁があり、歌舞伎座でもう一度入門をお願いしました。そして、「なら来月からおいで」と入門を許されました。

～今日までの歩みをふり返って～

館長 入門から今日のご活躍に至るまでにはご苦労もおありだったでしょう。ふり返ってみていかがでしょうか。

藤舎 苦労らしい苦労はありません。ここまで歩んでこれたのは、多くの方の応援があったからです。まずは、毎月東京へ通わせてもらえる環境、家族の協力です。また、先生のご家族の応援です。大人になってから始めた私は、どうしても頭で考えてしまうのです。先生のご自宅内の2階のお稽古場で練習中、1階リビングへ「バカヤロウ、へたくそ」などの声が聞こえていたそうです。心が折れそうな思いで降りていくと「次回も来てね」とか「大丈夫よ、娘と同じ扱いしてごめんね」と先生の奥様がフォローしてくださいました。さらに、私が笛を始めたことを知った方が私をホームパーティに呼んで、笛を吹かせてくださり「よかったよかった」と言ってくくださったことが励みになりました。このような方々の応援が、続けてこられた原点です。

館長 まさに褒めて育てるですね。

藤舎 また、日本舞踊家であった祖母に強く大きな影響を受けています。昔の祖母のビデオを見ていると、生きているステージを見ているような不思議な感覚に陥るほどです。

館長 笛を長く続けてきて良かったと思うのは、どんな時ですか。

藤舎 まず、海外や地方などで演奏の機会をいただけたことです。また、私の頼りない部分を支えてくださるお弟子さんに恵まれていることです。そして、私が一番好きな音色をもっていらっしゃる先生に入門させていただけたこと、さらに、笛を通し自分がおかれている環境や金沢の良さなどを知ることができたことです。

～先生のような音色をめざして～

館長 私が教師をしている時、生徒が努力してもなかなか伸びない。それがあつた時ポンポンと学力が伸びることがありました。笛の場合、自分の伸びを感じるのはどんな時でしょうか。

藤舎 自分が伸びたなんて思ったことはありません。逆にお稽古をさぼると、音色が落ちるだけなんです。お稽古していて横ばい、一生懸命やってちょっと上向くぐらいなので、伸びたということは…。先生の舞台をお聴きして、自分ならこう吹くところを、先生はこのようにお吹きになっているなど、一つずつ気が付いていくということですかね。

館長 先生の音を聴きそれに近づけようと思う、そういう音を聴き分けることが大事なのですね。我々素人には区別がつかないプロの世界ですね。例えば、オリンピック級、全日本級、県レベルと様々な選手がいますが、高校生の選手からみればどの選手も凄いということと一緒になんです。それが、上へ行けば行くほど、凄いという形容詞の程度が具体的にこんなところがこれだけ違うと差が見えてくるのです。笛の世界ではいかがでしょうかね。藤舎さんがめざす先生の笛の音と他の先生の違いは？

藤舎 そうですね。芸大でいろいろな先生に教えていただきました。それぞれ素晴らしい先生ばかりで流儀がいろいろあり、各先生方の持ち味や個性があります。どのレベルというよりも、どの音が好きかということに近いのではないのでしょうか。大好きな中川先生の音色。いつかは先生のような音色をと、めざしておりますが難しいです。

～金沢のもつ豊かさを発信～

館長 さて、新幹線開業で活気づく金沢ですが、笛の演奏との関係で変化をお感じになることがありますか。

藤舎 金沢主計町の町家（金沢市指定文化財）で、毎週ミニコンサートをしています。外国や県外のお客様が増え、金沢らしいと喜んでいただいております。コ

ンサートには、邦楽やクラシック音楽、いろんなジャンルの方が参加くださっています。金沢がもつ豊かさを少しでもお伝えできればと思っています。



館長 カナザワというネームバリューはありますか。

藤舎 もちろんあります。県外へ行くと「金沢らしい」という言い方をよくされます。皆さまの金沢のイメージに笛がピタリとはまっている感じです。

館長 他のジャンルとの共演にはどのようなものがありますか。その際、留意しておられることはありますか。

藤舎 ピアノ、チェロ、ハープ、古典の中では、お箏、長唄、変わったところでは打楽器のボンゴ等です。曲は双方がかけ離れたものではなく歩み寄るような曲、笛がメインで打楽器が入るような曲も大丈夫ですね。古典の基本的な形は絶対変えないという部分を踏まえた上での新しいコラボは金沢に合うと思います。

館長 海外でも演奏なさっていると聞きしていますが、海外での反響はどんなものでしょうか。

藤舎 外国人の方は実にストレートですね。拍手だけでなく、演奏後に声をかけていただく言葉から温かい気持ちが伝わりました。着物や髪型に興味を持つ方もおられますね。

館長 今後どのような抱負をお持ちですか。

藤舎 30代の時はいろんなジャンルの方と演奏をするという目標がありました。40代になった今、自分の中の引き出しを選んでやっていきたい。また、演奏を聴いていただくだけではなく、笛を体験したいという方がいらしたら体験できるような、そんな企画を考えております。他の楽器の方にも協力していただいて、体験した方々に感想などを発信していただけたらうれしいです。体験されたことが金沢の魅力の一つになればと期待しているところです。

～伝統文化の継承者の育成、後輩の指導～

館長 伝統文化の継承という点で、後輩の育成についてはどのようにお考えでしょうか。

藤舎 私は、机の前に「継続は力なり」と書いた紙を張り、稽古をしていました。お稽古はやらなければゼロ、何も得るものはありません。ですから、稽古をしなければゼロ、努力をすればプラスになっていく。門弟には、笛の音が出なくても、自分が不向きかもしれないと考えるのではなく、努力は必ずプラスになっていくという考えでやってくださいと申しております。

館長 経験するとしらないでは、差をとればわずかもきれないですが、比をとると無限大です。経験することとは大切ですよ。

藤舎 そうなんです。自分でやるとやらないかとの差はすごく大きいですよ。「できない」という門弟に、

私は叱ります。できないという壁を作らずできるまでやればよい。舞台にも楽器にも神様がいます。だから、自分ができないと言葉通りになり、楽器は動かなくなり音が鳴らなくなる。「頑張ればできると思えばそうしてくれる」と、いつも言っています。私も先生に教わりました。「舞台と笛への感謝を忘れてはいけない」と。特に笛は演奏者の心がダイレクトに表れる楽器なのです。やればいつかできる。やらなければゼロ、努力した分、プラスになっていくと考え指導に当たっています。

館長 まさに上杉鷹山の「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」ですね。行動しない、ゼロでは良い結果に結びつきませんね。

藤舎 もちろんです。「継続は力なり」と言いますが、続けてこそ、やってこそです。

館長 以前勤めていた小松工業高等学校の校長室に「功在不舎」という額が掲げてありました。意味するところは「成功はやめざるにある」です。まさにこれですね。やめたら終わりということです。

藤舎 そうですね。私の好きな言葉は、「継続は力なり」と「不易流行」です。

館長 「不易流行」は私も好きな松尾芭蕉の言葉ですが、昔からの伝統の中にその時代の新しい息吹を取り入れて、その時代に馴染むものに創り上げていくことだと思っています。藤舎さんはどうお考えですか。

藤舎 一調一管も昔の古典からみますと、新しいものですが、能楽の精神を踏まえつくりあげられた素晴らしいものです。私にとり「不易」とは、精神的なもの、絶対に変えてはならないもので、舞台に対する姿勢、先輩方が今まで築かれた音や舞台に対する敬意です。それを踏まえてこそそのチャレンジです。

館長 以前、亡くなられた三代徳田八十吉先生の「伝統と伝承」についてのお話を伺う機会がありました。「伝承」とは単に昔からの技術を今に引



き継ぐだけである。八十吉先生は、古九谷の五彩に新しい息吹を吹き込み現代風のグラデーションとマッチさせ「彩釉」の技法で人間国宝になられ、新しい「伝統」を築かれました。まさに、こういったことと同じですね。

藤舎 今まで先人が築かれてきたものに、私たちは、敬意を払わなくてははいけません。ですから伝統と今求められているものとの調和という考え方もできるのではないのでしょうか。

館長 奥深いお話ですね。芸の道の精進とは、精神的なところまで極めることですね。

本日は、ありがとうございました。

事業報告

2015年度 文教国際理解講座のご案内

文教会館で外国の言葉や文化を学んでみませんか。アメリカ・カナダ・韓国・中国出身のネイティブスピーカーが丁寧に指導いたします。
 空きのある講座には、途中入会も大歓迎です。お申込み前に見学もできますので、お電話でお気軽にお問い合わせください。



エリック先生（英米文化）



ジョフリー先生（英米文化）



リョウ先生（中国文化）



キム先生（韓国文化）

実施期間：2015年5月～2016年2月（年35回）
対象：一般、高校生
定員：1講座 約20名
受講料：年額36,000円（教材は実費負担）
 ※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。

講座時間割 ※韓国文化・中国文化は19:00～20:40

	10:00～11:40	18:30～20:10
火曜日	英米文化 中級	英米文化 準中級 英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級 英米文化 中級	英米文化 準中級 韓国文化 初級※ 中国文化 初級※
木曜日	英米文化 初級 英米文化 準中級	英米文化 初級 英米文化 中級

受講生の声

途中入会で、初めは緊張しましたが、先生の教え方が丁寧でクラスの雰囲気も良く、毎週楽しく通っています！

教育資料収集整理事業

当事業は、県内の貴重な教育資料を収集整理し、その活用を通して本県の教育の活性化を図ることを目的としており、今年度も推進委員会の皆様や資料調査委員の方々のご協力をいただきながら実施しています。
 戦前の教科書や研究図書・教育物具等の収集資料は5万点を超え、寺子屋時代から学制発布、さらに今日に至るまでの“いしかわの教育の姿”をたどることができます。
 また、当館1階ロビーでは、年間を通して県立学校の教育活動の紹介や当館所蔵の資料公開のほか、特別展として教育関係団体の作品展などの小展示会を開催しています。ぜひお立ち寄りください。

収蔵資料公開展

(H26年度収集品の紹介)



特色ある学校の紹介

(羽咋工業高校)



(加賀聖城高校)



(県立工業高校)



★教育資料ロビー展に出展を希望される学校や団体は、文教会館までお問い合わせください。

収集資料は当館地下の資料展示室や物具室でご覧いただけます。

(閲覧を希望される方は、事前にお申し出ください。)

また、学校等の教育団体には資料の貸出もいたします。昔の教科書や物具等を社会科や総合的な学習にご活用ください。

蔵書リストは当館ホームページよりダウンロードができ、自由にご覧いただけます。



物具室



資料展示室

事業紹介

2015年度 文教アートウェイブ

文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年度も感動のひとつときをお届けします。

▶ 合唱団水星 音ぼらぁ♪と 合唱団Voce Libera 第1回合同演奏会 (6月7日)



米谷昌美先生のピアノ伴奏で、合唱団水星、音ぼらぁ♪と、合唱団Voce Libera 3団体の初めてのジョイントコンサートが行われました。各合唱団が日ごろの練習の成果を披露したのち、3団体が心と歌声を重ね合わせたすばらしい合同演奏で会場を魅了し、その温かく力強い歌声に惜しめない拍手が送られました。

♪♪♪ 今後の公演予定 ♪♪♪

- ・金沢高等学校合同演奏会 サマーコンサート 7月18日(土)
- ・金沢桜丘高等学校吹奏楽部クリスマスコンサート 12月20日(日)
- ・バレエの街コンサート2016 平成28年1月17日(日)
- ・金沢伏見高等学校吹奏楽部定期演奏会 平成28年3月21日(月)



今年度公演の詳細や過去の公演一覧、来年度の募集要項等は文教会館のホームページに掲載しています。



2016年度 文教アートウェイブ公演募集

演劇や演奏会等の公演を希望される方に、ホールの基本使用料と冷暖房費を無料でお貸しします（照明設備費等有料・リハーサルを含む3日間まで）。詳しくは文教会館事業課までお問い合わせください。

TEL 076-262-7311 申込期限 平成27年9月30日(水)

文教会館の施設ご利用について —教育文化の発信に 研修・会議・交流の場—



各種演奏会、公演などに適した音響・照明完備のホールです(590席)。



大会議室

少人数の打合せから研修・講演会まで、用途やご利用人数に合わせて、様々なタイプの会議室をご用意しています。

プロジェクターやスクリーン等の設備も充実!

様々な用途にお使いいただける和室のほか、茶室や応接室もあります。

和室大会議室

全会議室で、無料でインターネットがご利用いただけます。(和室・茶室を除く)



当館ホームページで詳細をご覧になれます。街中のオアシス・文教会館をぜひご利用ください。

第28回 いしかわ県民陶芸展

— アマチュア陶芸作品募集 —

県内の陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。

石川県にお住まいの方ならどなたでも応募できます。初心者の方も大歓迎です。小さなお子様から高齢の皆様まで、ぜひ、ふるって作品をお寄せください。お寄せいただいたすべての作品を展示します。どうぞ、発表の場としてご活用ください。

■作品応募について

- 作品規定**
- ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 - ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時** 平成28年1月10日(日) 10:00～17:00
- 受付場所** 石川県文教会館
- 出品料** 一般：2,000円、青少年（20歳未満）：無料
- 審査員** 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋年雄（敬称略）

応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。
当館のホームページからもダウンロードできます。



作品展示の様子



飯田審査員による作品解説

■作品展示について

- 展示期間** 平成28年1月16日(土)～24日(日)
9:00～18:00（最終日は15:00まで）
- 展示会場** 石川県文教会館
- 表彰式** 平成28年1月17日(日) 13:30～15:10 石川県文教会館
◇賞状授与:大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
◇審査員による講評・作品解説
- その他** 展示期間中、入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施します。投票された方には抽選で記念品を贈呈します(若干名)。

入場無料

主催：公益財団法人石川県文教会館
 後援：石川県、石川県教育委員会、金沢市、北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送
 テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、FM-N1

第27回 大賞
「夢の途中」東 利子（小松市）

「いしかわ教育ウィーク」関連行事のお知らせ

教育資料ロビー展

文教会館所蔵 小学校「国語」教科書のあゆみ展
～教え手・学び手の想いをのせて～

期間：11月1日(日)～8日(日)
会場：石川県文教会館1階ロビー

入場無料

当館が所蔵している多くの教科書の中から、小学校の「国語」に特化して展示します。

それぞれの時代に熱心に行われていた教育活動の一端を知り、戦後70年の今日の教育について改めて考えてみませんか。



同時開催

特別展示 紙芝居「禁酒村と学校の話」

大正15年、村を挙げた5年間の禁酒活動で新築校舎の費用を集めた河合谷村小学校。90年前の逸話を当時の卒業生が紙芝居で再現しました。いつの時代も変わらぬ子どもへの深い愛情と教育の大切さを伝えてくれます。

「教育史セミナー」開催

日時 11月2日(月) 14:30～16:00
会場 文教会館4階大会議室
講演 演題 「能登を詠んだ家持」
講師 村井 加代子 氏
(元石川県立図書館長)

参加費 無料・申込不要

越中国に国守として赴任した大伴家持は、748年、能登路を巡行しています。都への思いを募らせながら、どんなふうにも能登路を巡行したのでしょうか。どんなふうにも能登を詠んでいるのでしょうか。

